



NO.1025

2015・6・28

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八四三  
四三三・四四五八  
F 四三三・四四五七

# 平和を守れ！憲法9条を守れの輪を

## もっと大きく！ 戦争法案反対の声を響かせよう



日本共産党網走市委員会は、後援会の人達と6月20日（土曜）の午前11時からベーシック駒馬店前、11時40分からベーシック橋北店前で「戦争法案反対」の宣伝行動を行いました。「ストップ戦争立法」「若者を戦場に送るな」ののぼりや後援会の人達手作りのゼッケンをまとい道行く市民やスーパードの買い物中のみなさんに訴えました。

# ストップ 戦争法案！

前回に引き続き地域から2名の女性の方が戦争の悲惨さと平和の大切さを切々と訴えていました。22日には、自民・公明両党が数を力に9月27日まで国会の会期を95日間延長（過去最長）する暴挙をしてまで違憲の戦争法案を通そうとしています。27日も11時から同じ場所で行行動を行いますので、平和を願う市民のみなさんの参加を呼びかけています。



ポスターや横断幕を持ち市民に訴える参加者（駒馬）

## 安保関連法案の陳情・要請3本！

23日から始まった網走市議会に、市民団体、労働組合、政党から暴走を続ける安倍内閣がすすめる安保法制に対して陳情・要請が出されました。

平和憲法を守る網走の会から「安保関連法案のすみやかな廃案を求める陳情」、北海道高等学校職員組合から「憲法を守り、日本を海外で戦争する国にする戦争立法の廃案を求める陳情」、結核の会から「安全保障法制の慎重審議を求める意見書提出についての要請」が提出されました。この陳情・要請は、6月25日の本会議終了後の総務・経済委員会で審査されました。



## 菊地ひろし まっしぐら。

私も参加している「平和憲法を守る網走の会」では、23日から始まる市議会に『戦争法案』反対の陳情を提出しました。19日には「守る会」代表の斉藤道子さんと各会派をまわり、陳情に対する協力要請を訴えて回りました。「守る会」ではこれまでも「秘密保護法」

「集団的自衛権」反対の請願を提出してきましたが、「国会で審議中なので見守りたい」「国が決めることだから」とする発言が多数を占め、網走市民の思いを届ける議論にはなってきました。

斉藤代表は「憲法学者も違憲だと言っている、国民の半数以上が反対、そして八割の国民が慎重審議を求めています」と訴えました。4月の選挙で「市民のみなさんの声をしっかりと議会に届けます」と言って選ばれた議員のみなさんには、今度こそ市民の声に真摯に耳を傾けてほしいと思います。

## 松浦 奮戦メモ

23日から7月1日までの日程で第2回定例会が行われています。25日と26日は提案された補正予算と条例改正について、2つの常任委員会に付託され審議が行われます。

私の所属する総務・経済委員会では、能取工業団地に新たにメガソーラー発電施設ができるため、能取特別会計から市有財産特別会計に有償で所管換えし、京セラに20年間土地を貸し付ける提案やオホーツク網走マラソン開催の負担金など11案件が審査されます。

その他に請願・陳情・意見書の要請などの審査があります。特に、安倍内閣のあまりにも強引で憲法違反の「安保関連法案」に係わる陳情と結核の会提出の意見書要請があります。何としても「網走市民の声」を採択し意見書を政府に送付できるよう努力します。

## 流水

♪ ホーグーヤ ホグーヤ  
♪ ホーグーヤ ホーグーヤ  
♪ ホーグーヤ ホーグーヤ  
と、盧佳世（のかよ）と、在日韓国人オペラ歌手。父1世母2世の祖国韓国姓を取得）さんは歌う。▼70年前、10歳だった父親が朝鮮半島から日本に渡り住んだが、一度も故郷へ帰っていない父のことを想う「海渡り」は、佳世さん作詞・作曲だ。参加者は、このフレーズを一緒に合唱した。日本の民謡にもある「エンヤトットト」"ドッコイショ"などの掛け声だが、それぞれ思いが違ふだろう。▼演奏会は5月末だった。主催のあばしり会（旧アラシックス会）は、2008年に還暦を迎えた有志5名が、「町おこし」の意義も固く発足。エコーセンターのサークル団体として活動している。今回は、「韓国擁護論」（図書刊行会）の著者 二日市

壮を招いての講演と、韓国とかかわりのある盧 佳世さんとのうた声ジョイントだった。▼二日市さんは、NHK記者として定年後、韓国日本語放送に従事。安倍対朴政権登場でますます行き詰まっている日韓関係を、ジャーナリストとして考えてきた。それは「韓国擁護論」を書くことだった。靖国参拝と慰安婦・反日の歴史的背景・日本がとるべき道とその理由。ともに世界平和に貢献できると目次は続く。国を超え多くの方がこの本を読まれることを、と結ばれていた。▼国の体制に物を申すことは、命に関わることもある。最後は自分の問題である。大人の私たちは子どものために言い続けること、それを再確認したひと時だった。あばしり会「感謝！（て）